

第2学年 国語科学習指導案

日時 令和

生徒数

指導者

1. 単元名(教材名)

『平家物語』に描かれた人物の生き様を読み取って、考えたことを共有しよう。
(光村図書『国語2』「扇の的—「平家物語」から」)

2. 単元の目標

- (1) 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を
知ることができる。[知識及び技能] (3) イ
- (2) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などにつ
いて考えたりして、内容を解釈することができる。[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思い
や考えを伝えあおうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3. 本単元における言語活動

本単元では、「平家物語」に登場する人物の生き方を読み取り、考えたことをグループで伝え合う。」という言語活動を行う。生徒が古典を身近に感じ、親しむためには、登場人物について深く知り、自分との共通点を見いだしたり相違点に気付いたりし、心を動かされる体験が重要である。そこで、登場人物の生き方や思いに焦点を当てて読み、友達との対話を通して考えを深める活動が単元の目標を達成するために有効であると考えた。

4. 単元について

(1) 生徒について —省略—

(2) 教材について

『平家物語』は、漢語を巧みに交えた独特の調子とリズムをもち、音読を通して古典のリズムに親しみ、その世界を身近に感じることができる作品である。また、物語中には武士の威厳と誇りを大切に
する人物、合戦の中でも風流心を忘れない人物、敵・味方の関係を超越して他者の死に心を痛める人
物など、多様な人物が描かれており、そのような魅力的な登場人物の心情に迫ろうとすることで内容
の解釈につながり、古典に表れたものの見方や考え方を知らるために適した教材である。

(3) 指導について

本単元における指導のポイントは二つある。

一つ目は、『平家物語』の世界観や「扇の的」「弓流し」の場面をイメージしやすいように工夫することである。NHK for School の動画を見せたり絵巻物を提示したりするなどして、理解しやすいようにする。

二つ目は、登場人物の思いや考え方を読み取るために、人物像を捉えるための問いについてグループで考えさせることである。何百年も前の人たちの生き方・考え方を現代の中学生が想像することは容易ではない。そのため、文章からどのような武士の生き方や考え方が読み取れるかを問い、グループで意見を交流することで理解を深めさせていきたい。

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。((3)イ)	「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(C(1)イ)	粘り強く登場人物の言動について考えたり、描写を基に解釈したことを伝え合ったり、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。

6. 単元の指導と評価の計画(全7時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準、評価方法等
1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○『平家物語』の概要や特徴を知る。</p> <p>・冒頭部分を音読し、「無常」とはどういうことかについてノートに一文でまとめる。</p>	<p>・単元の目標と学習計画を大型提示装置に映す。</p> <p>・「NHK for School」の動画を大型提示装置に映し、視聴させる。</p> <p>・教科書に掲載されている「源平合戦図屏風」の PDF データを生徒の端末に送り、拡大するなどして鑑賞させ、どのような場面を描いたものか話し合わせる。</p> <p>・「無常」という言葉について、漢字の意味も踏まえて考えるよう促す。</p>	<p>【知】記述の点検(ノート)</p> <p>・作品に表れた「無常観」について理解しているか点検する。</p>

<p>2</p>	<p>○「扇の的」の内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「扇の的を音読し、「出来事」「登場人物」をノートに整理する。 ・「那須与一」の人物像について考えたことをノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳を参照して整理させる。「かぶら」「黒革をどしの鎧」など理解が難しい語については写真を見せてイメージをもたせる。 ・戦にかける思いや当時の武士としてのあり方などを想像しながら考えさせる。 	
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「那須与一」の人物像についてグループで話し合い、スライドにまとめる。 ・話し合ったことをクラス全体で共有する。 ・各グループの発表を踏まえ、「那須与一」の人物像をノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで1ファイルを共同編集しながら話し合わせる。 ・スライドを大型提示装置に映しながら、グループの代表者に発表させる。 	<p>【思・判・表】</p> <p>記述の点検(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の描写を踏まえて「那須与一」の人物像に迫れているか点検する。
<p>4</p>	<p>○「弓流し」の場面の内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「弓流し」の場面を音読し、「出来事」「登場人物」をノートに整理する。 ・「源義経」の人物像をノートにまとめる。 ・「源義経」と「那須与一」の共通点についてグループで話し合い、話し合ったことをクラスで共有する。 ・各グループの発表を踏まえ、「源義経」と「那須与一」の共通点についてノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「弓流し」の場面を描いた絵巻のPDFを生徒の端末に送り、本文の記述と絵を対応させて理解を促す。 ・「弓流し」のエピソードから、義経の武士としての誇り高さに気付かせる。 ・グループの代表者に発表させる。 	<p>【思・判・表】</p> <p>記述の点検(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の描写を踏まえて「源義経」と「那須与一」

			の共通点を書いているか点検する。
5	<p>○自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」を読んで捉えた武士の生き方と、それに対する自分の考えを Google ドキュメントに書く。 <p>○単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートを見返し、単元を通して気付いたことや考えたことをノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google ドキュメントをクラス全員で共有し、1人に1ページを割り当てて書かせる。 ・端末上で互いの記述を読み合い、コメント機能を用いて感想を入力し合う。 	<p>【思・判・表】</p> <p>記述の点検(ドキュメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の言動の意味などを踏まえて書いているかを点検する。 <p>【主】</p> <p>記述の点検(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に沿って粘り強く考え、古典に対する理解が深まったかを点検する。

7. 本時の指導 3時/全5時間

(1) 本時の目標

- ・「那須与一」の人物像を捉えよう。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準、評価方法等 ○ Bと判断できる状況 ● Cと判断する状況の手立て
1. 前時までの学習内容を振り返る。	1. 「那須与一」の人物像について自分が考えたことを、ノートを見返して再確認させる。	
「那須与一」の人物像を捉えよう。		
2. グループで「那須与一」の人物像について話し合い、スライドにまとめる。	2. グループで1ファイルを共有し、共同編集させる。 ・話し合いのポイントとして以下の二つの問いを示す。 ①扇の的を射た場面で与一はどのような様子であったか。	

	<p>②舞を舞った男を射た場面で「あ、射たり。」と言った人と「情けなし。」と言った人はそれぞれどのような気持ちであったか。</p>	
<p>3. グループで話し合ったことをクラスで共有する。</p>	<p>3. 各グループが作成したスライドを大型提示装置に映し、代表者に発表させる。</p>	
<p>4. 各グループの発表を踏まえ、「那須与一」の人物像をノートにまとめる。</p>		<p>【思・判・表】 記述の点検(ノート) ○扇の的を射る際に与一が念じたことや、舞を舞った男を射たことに対する周りの反応などを踏まえて人物像を書いている。 ●グループで作成したスライドや、他のグループのスライド(必要に応じて共有する)を見て考えるよう助言する。</p>